

自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの開発

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部 人間看護学科 講師 玉川 あゆみ
研究分野 : 小児看護学、地域看護学、家族看護学

自閉スペクトラム障害をもつ子ども（以下、ASD児）は、医療受診に対する困難がある場合があります。特に感覚過敏がある場合、感覚器の診療を行う耳鼻咽喉科への受診では困難が大きいと言われてしています。そのため、ASD児の耳鼻咽喉科診療における問題と支援を明らかにし、診療を円滑に進めるためのケアガイドの開発を目指しています。

■自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療における問題と支援の明確化

耳鼻咽喉科診療でASD児が抱える問題と支援について、ASD児の耳鼻咽喉科診療に携わっている医療関係者に面接調査を行いました。その結果、医療関係者は、ASD児と親が耳鼻咽喉科診療に対するネガティブな体験による心的負担を抱えていることを理解する必要があることが明らかになりました。その上で、ASD児と親との関係性を積極的に築き、ASD児が主体的に診療に臨めるよう支援する必要性が示唆されました。

■自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの作成

文献検討や面接調査結果を踏まえて、「耳鼻咽喉科受診が苦手な自閉スペクトラム症児の診療をスムーズに進めるためのケアガイド」を作成しました。ケアガイドは、第Ⅰ部：子どもの障害特性の理解、第Ⅱ部：子どもと親への基本的な関わり方、第Ⅲ部：診療の進め方で構成しました。今後は、臨床現場において医療関係者にケアガイドを実際に使用してもらい、臨床での適用可能性を評価していきます。また、ケアガイドの活用の幅を広げていくために、アプリ等のデジタルコンテンツの開発を目指しています。

項目	確認事項
<p>気が紛れている時に処置をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 動くとき危ないことを再度説明し、診療中に気が紛れるようポジショニングを指示しながら声をかける。 ● 必要時、保護者の指っこや、医療関係者による頭部の固定をおこなう。 <p><ポジショニングの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・右耳を診察時は「左手を高くあげて」と指示を出す（あるいは絵・写真カードを示す）。 <p>診察中は「手をあげてね」「天井にさわられるようにあげてね。もっともっとあげるかな？もうちょっと伸ばして伸ばして」等と声をかけて手をあげることに集中させる。</p> <p>・鼻や喉の診察時、またはスワブの検査の時は、「目はお空のほうをよく見て、手はパーしてお空に向けて膝の上においてね」と指示を出す（あるいは絵・写真カードを示す）。</p> <p>「手はお空にいる？ちょっと気持ち悪いけど、お空に向けてね」等と声をかけ、動作に集中してもらう。</p>	<p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに触れるときは指先で触れず、手のひらを用いて面で触れる。 <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不意に手が動きそうな時は「握手してよいか」といって、手を握らせてもらう。力をいれず、痛みがないように握る。
<p>集中できるものを見せる</p> <p><具体例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面モニターで耳の中を見てもらい、確認しながら進める ・子どもの興味のあるDVDやゲームを見せる ・小さめの玩具やキーホルダーをポケットに忍ばせておいて、タイミングを見て出すことで気を引く。 	<p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きがあるおもちゃによく集中することができる。
<p>子どもが日常で大切にしているものを持参してもらい、それらを用いて気を紛らわせる</p> <p><具体例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぬいぐるみやタオル等 ・iPad等 	<p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切にしているぬいぐるみ等は、子どもの安心材料にもなる。

耳鼻咽喉科受診が苦手な自閉スペクトラム症児の診療をスムーズに進めるためのケアガイドの一例